

「テセントリク+AVA 維持療法」について

AVA はアバスチンの略称です。

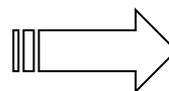
1. 投与方法

Rp	薬剤	効能または使用目的	投与時間
1	生理食塩液	輸液・血管確保・ライン洗浄	15分
2	アテゾリズマブ(テセントリク)	抗がん剤	30分
3	生理食塩液	ライン洗浄	5分
4	ペバシズマブ(アバスチン)	抗がん剤	30分

2. スケジュール

テセントリク+AVA 維持療法は21日サイクルで抗がん剤を投与していきます。初日に抗がん剤を投与すると残りの20日間は「休薬期間」といい、体調の回復を待ちます。その後同様にして治療が進みます。

	1サイクル目		2サイクル目	
	1日目	2日目～21日目	1日目	2日目～21日目
投与日	○		○	
休薬日		○		○



3. 特徴

●テセントリク

作用: 免疫細胞の働きにより、抗がん剤作用を示します。

注意事項: 点滴中に痛みや違和感があった場合はお知らせください。

●アバスチン

作用: がん細胞への血管新生を抑制することで、酸素や栄養を届かなくする作用と、他の抗がん剤をがん細胞へ届きやすくする作用があります。

注意事項: 点滴中に痛みや違和感があった場合はお知らせください。



4. 副作用

抗がん剤治療によって起こりうる主な副作用の種類、予防法、そしてそれが出現したときのひとまずの対応方法を知ることが副作用対策の第一歩です。ここでは比較的高頻度に出現する副作用と頻度は少なくとも注意が必要な副作用(有害作用)について掲載しました。

(ただし、頻度や強さには個人差があることをご理解の上で、参考にさせていただきたいと思います。)

※テセントリクによる副作用は別紙をご参照ください。

高血圧症

好発時期:投与開始後4ヶ月以内の発症が多いようです。

対策:自宅での定期的な血圧測定をお願いします。

めまい、ふらつき、がまんできない頭痛と吐き気、けいれん、などの症状が出た場合はご連絡ください。

安静時にくり返しの測定をしても最大血圧が180mmHgまたは最小血圧が120mmHgを超える場合もご連絡ください。

出血傾向

好発時期:投与初期に多い傾向がありますが、治療期間を通して可能性があります。

対策:粘膜からの出血が多いようです(鼻血、歯茎など)が、通常は軽く、自然にまたは圧迫することで止まります。

(10~15分位しても止まらない場合はご連絡ください)

傷口が治りにくくなることがありますので怪我などには注意してください。

口から血を吐いたり、下血などが見られた場合は早めにご連絡ください。



アレルギー

好発時期:点滴中または点滴後の比較的早い時点で現れることがあります。

自覚症状は、息苦しい、顔がほてる、胸が痛い、発疹がでる、汗がでる、などです。

対策:異常を感じたらすぐにスタッフにお知らせください。

血管外漏出

抗がん剤を点滴しているときに血管の外に薬が漏れてしまう(漏出)ことがまれにあります。症状としては点滴部位の違和感、痛み、腫れなどで、場合によっては血管に沿って症状が出てくることもあります。もし、症状にお気づきになった場合は早めにスタッフにお声掛けください。

好発時期:点滴している間がほとんどですが、帰宅後にもし異常を感じたら早めにご連絡ください。

対策:抗がん剤の種類によって対策が異なります。基本的には患部を温めたり、軟膏や注射による治療を行います。

※この他にも日常と違った症状がでた場合は病院までご連絡ください。

済生会宇都宮病院

代表:TEL 028-626-5500